

【全体】

Q1

今回、通期の営業利益予想を 150 億円下げたが、150 億の下方修正を 3Q と 4Q で分けるとどんなイメージになるか。

A1

3Q と 4Q でおおよそ半分ずつ。それぞれ 75 億円程度という感じ。

Q2

今回業績を下方修正したことにより、来期の目線も下がる可能性があるのではないか。来期業績のイメージについて、定性的でよいので教えて欲しい。

A2

3 年間 (2018-20 年) の中期計画の枠組みで考えている。期初は通期営業利益を 1,300 億円で予想していたため、期初見込み比では 100 億円くらいの減少ということになるが、今年は原燃材料価格高騰の影響が大きかった。この影響を除けば戦略的には間違っていなかったと思う。戦略事業も順調に伸びている。具体的な数字がどうなるかは来年の本決算で説明させて頂く予定。方向性として大きく変えなければならないということはない。

Q3

通期の営業利益の下方修正について確認したい。要因別は大まかにご説明頂いたが、セグメント毎にはどれくらい下がったのか？

A3

全セグメントで同程度に未達だった。

Q4

3Q から 4Q にかけて 63 億円の増益になるが、大きいのは化学品セグメントか？

A4

化学品セグメントは増益になるが、ガラスセグメントも同程度の利益増になると思っている。

Q5

業績修正により、下期は四半期別、セグメント別で利益がどうなるか？

A5

ガラスセグメントは、例年通り板ガラスも自動車用ガラスも季節要因で通常 3Q より 4Q の利益が増加すると考えている。電子セグメントは季節性で言うと、電子部材事業は通常 4Q の利益が最も大きくなる。一方今年に関しては、ディスプレイは若干 3Q の方が強い。結果、電子セグメント合計では 3Q よりも若干弱くなると見ている。化学品についても通常 4Q に最も利益が出る構造になっており、今年の 4Q は、クロール・ア

ルカリではそれほど大きな増益は見込めないが、フッ素スペシャリティや、特にライフサイエンスで大きく利益が増える見込みである。

総括すると、化学品セグメントとガラスセグメントが 4Q にそれなりの増益になって、電子セグメントがフラットか若干弱くなると見ている。

Q6

来期に向けて各セグメントの営業利益を見る上で、一過性の要因による減収で来期は回復すると思われるものと、足元の動向を見極めなければならないものについて伺いたい。例えばガラスセグメントでは、今期原燃材料が大きく上がってしまったために、なかなか利益が想定に追いつかなかった面があると思う。一方でアメリカの販売構成の変化や欧州自動車の排ガス規制の影響は一過性の問題と考えるが、いつ頃から解消して平準化しそうなのか。あるいはもう少し長引きそうなのか。化学品セグメントでいうと、クロール・アルカリ事業の数量増で増益を考えているのか。セグメントごとに懸念材料はどこにあるのか。

A6

定量的な説明は現時点ではできないが、ガラスセグメントでは欧州自動車の排ガス規制は一過性のものであって年内にも解消するのではないかと考えている。また、コスト増のかなりの部分を占める欧州天然ガス価格の上昇、これは夏場に急騰し TTF2 EUR/MMBtu くらい急にあがったが、これもいずれ平準化すると思う。なお、欧州の天然ガス価格は通常我々が感応度として説明している「1USD/BBL(Dubai)で 3 億円」には含まれていない。従来、欧州天然ガスはドバイ原油とは連動せずにこれまで動いてきたため感応度を説明していなかったが、今回急騰したため説明することとした。

電子セグメントで一番大きいものは、先ほど申し上げた通り先進機能ガラスの在庫処理であり、一過性の要因であるため、来期は利益を押し上げる要因になる。

化学品については、苛性ソーダ等の市況は引き続き強く、業績が大きく悪化するということは考えていない。フッ素・スペシャリティも大きな懸念材料はなく、ライフサイエンスに関しては大きく伸びるとみている。

なお、来年クロール・アルカリ事業では（投資による）能力増を計画しておらず、能力増による効果は見込んでいない。

Q7

戦略事業の利益寄与の度合いについて、足元の状況を教えて欲しい。

A7

戦略事業は比較的順調に伸びている。直近では利益に占める割合が 15%まで増加している。通期決算の時に改めて説明したい。現在一番大きいのはエレクトロニクスであるが、ライフサイエンスも非常に大きな成長を見せ始めている。モビリティも順調だが、まだ絶対額としてはこれからという段階。

Q8

減価償却費が 3Q から 4Q にかけて 72 億円増えるような計算になるが、中国の G11

用設備が影響するのか？

A8

G11 の投資に加えてインドネシアの発電所なども影響する。

Q9

減価償却費を通期で 50 億円引き下げているが、150 億円の業績下方修正との関係は？

A9

通年減価償却費の精度が高まった事により見込を減額した。下方修正と直接はリンクしていない。

【ガラス】

Q10

3Q 営業利益が対前年同期比で悪化（▲50 億円）していることについて確認させて欲しい。板ガラスは値上げにより前年比で横ばい以上の利益を確保できているのか？米国の販売構成悪化により自動車用ガラスが悪化したのか？米国の販売構成悪化は、通期下方修正要因では販売悪化の 40 億に入っていることだが、3Q にどれくらい発生していて、今後も続くものなのか？

A10

板ガラスはそれほど変わっていない。地域別には色々あり、日本・アジアは原燃材料価格上昇の影響を受け苦しい状態ではあるが、トータルで見ると、大きな影響を受けていない。一方で自動車用ガラスが大きく減益となっている。これは先ほど説明した通り、日本・アジアにおいては、受注量/出荷量は堅調だったが、出荷量を確保するためにコストが追加で発生しており、出荷量の増加が営業利益の増加へとつながっていない。北米はここにきてセダンから急激にピックアップトラックや SUV へのシフトが起きている。我々はセダンの販売が多いので、この影響をかなり受けている。欧州は新しい排ガス規制対応問題により 8 月から出荷が減少した。

また、新事業開拓のための R&D 費用や広告宣伝費も増えており全社でコーポレート費用が増えた。ガラスセグメントは全社に占める売上額が大きく、コーポレート費用が多く割り振られている。

これらの影響が今後も続くかどうかについてだが、日本の生産性については、若干手間取っているが 2019 年後半あたりから平準化されると思っている。欧州の排ガス規制による影響も一過性の問題であり、コスト改善が欧州で本格的に進むのは、モロッコプラントが立ち上がった後の 2019 年後半あるいは 2020 年からと考えている。

Q11

急激に原燃価格上昇が発生したという話だが、今後製品価格への転嫁に取り組んでいくのか？

A11

価格転嫁は今でも行っており、日本ではかなり製品価格は上昇したがまだ（原燃価格上昇に）追い付いていないので、できる限りの努力はこれからもしていかなければならない。欧州天然ガス価格は、夏の天候不順による急騰が一段落し今後は平準化しているが政情不安もあり、今後も高止まりするようであれば、価格対応は必要だと考えている。なお、高付加価値品については、今でも価格を上げる努力をしている。

Q12

欧州では自動車の販売が良くない事や、BREXITの影響などで域内全体の景気悪化を懸念する雰囲気がある。欧州はエクスポージャーが大きいと思うが、懸念すべき影響について教えて欲しい。

A12

欧州自動車用ガラスの売上はそれなりに大きいので悪くなれば影響は受けるが、足元の販売は非常に好調であり出荷に対する不安はない。むしろ我々としては製造コストを早期に改善していかなければならないという認識がある。もちろん欧州の政情等で何か起きた場合、影響がないとは言い切れないかもしれないが、足元でそのような影響は出ていない。直近では排ガス規制の影響を受けているが、一過性の問題だと思うので、今は具体的な心配をしていない。

Q13

つまり自動車用ガラスの不調については一過性のものと見ていて、これから徐々に戻ってくる、という見方をしているという理解でよいか。

A13

その通り。日本および欧州はコストが問題なので自分たちの努力で解決する問題であるし、解決できると思っている。解決には2019年下期までかかると見ているが、解決すれば利益は回復する。米国については販売車種構成が大きく変化した為、どう対応していくかを考えざるを得ない状況になっている。但し米国の売上はそれほど大きくないので、日本・アジアおよび欧州を立て直せば、増益基調に戻ると考えている。

【電子】

Q14

ディスプレイ用特殊ガラスの在庫処分が3Q実績でも4Q見込みでも出るという話だが、具体的にどのような製品なのか？損益インパクトは？2018年下期で解決するとみていいか？

A14

液晶テレビに使われるガラス製の導光板と呼ばれている製品である。非常に注目され採用が広く進むと見ていたが、期待と違ってそうならなかったため、在庫処分することにした。金額コメントは控えるが、かなり大きな額となる。2018年下期で費用処理は完了し、2019年には繰り越されない。

Q15

ディスプレイは生産性で価格下落による減益をカバーできなかったということだが、
どういう内容か。

A15

コストは順調に下がっているが、数量が若干下がっている。数量がある程度出ないと
価格下落を相殺できない。

Q16

中国での第 11 世代液晶用ガラス基板用設備は今年の 4Q に立ち上がるのか？来年度
に入ってからなのか？

A16

今年末から出荷開始予定。

Q17

ディスプレイと電子部材別に、対前期比較で利益の動きについて教えて欲しい。

A17

営業利益は 19 億円増えている。増益幅が大きかったのは電子部材だが、ディスプレ
イも増益であった。

Q18

電子部材は、スマホ関連の出荷減少があったが 4Q に向けても増益の基調が続くとい
う理解でよいか。

A18

やはり季節性はある。引き続き半導体関係、スマホ光学材料等は好調が続く。当初の
期待には届かないが、堅調に推移すると思う。

【化学品】**Q19**

クロール・アルカリの事業の見方について教えて欲しい。業績修正のリリースによる
と、クロール・アルカリのスプレッド縮小が下方修正の要因として挙げられており、4Q
の売値の見通しとしては、3Q 比ほぼ横ばいを見込むと書かれている。苛性ソーダのス
ポット価格が 3Q にかなり下がったが、苛性ソーダのスプレッドは 4Q には回復すると
見ているのか？

A19

クロール・アルカリ事業については、苛性ソーダと塩ビとエチレンのトータルのスプレ
ッドが大事だが、これは 3Q と 4Q でほぼフラットではないかとみている。下方修正
の要因に挙げたのは、もう少し早くスプレッドが回復すると考えていたが、期待ほどで
はなかったという意味。需給は引き続きタイトである。

Q20

苛性ソーダのスポット価格が下がったのは 6 月頃と思うが、半年ぐらいすると長期

契約にも反映されてくるという懸念を持っている。今回の発表内容からすると、スプレッドの悪化懸念はないということでもいいのか？

A20

苛性ソーダの価格下落の影響は3Qにすでに出ているが、現在苛性ソーダの価格は安定的になってきているので、これ以上悪化することはないと考えており、これを想定価格の前提としている。

Q21

四半期別売上高の推移をみると、ライフサイエンスは1Qの売上が最も多く、2Q、3Qと減ってきているが、4Qには回復するのか？

A21

4Qは大きな売上が見込めているので、大きな売上増になる。

以上